［資料３］

鳥取県中部地域公共交通利便増進実施計画（計画期間：令和元年 10 月～令和６年度）に基づくバス再編路線の利用状況

R7.5　鳥取県交通政策課

〇通勤通学便として再編・新設した赤碕線西倉吉経由便については利用者が減少傾向であり、倉吉総合産業高校線は増加傾向である。一方で、赤碕線西倉吉経由便のうち、令和３年４月に新設した経路については利用者数が減少している。
〇通勤の利便性向上のため、令和元年１０月に再編を行った西倉吉工業団地経由便については、コロナ禍以降に利用が増えると見込んでいたが、令和６年度も利用者の減少が続いており、ほぼ利用されていない便もある。
〇観光利用が主である青山剛昌ふるさと館バス停での乗降数は増えている。
〇県立美術館開館を見据え実施した令和３年１０月の再編路線では、南側ルートバス停（白壁土蔵群前～厚生病院正面玄関前）乗降客は減少している。

⇒通学向けの再編路線は、各年度における生徒の居住地によって利用者数が変動するため、再編の効果を検証するためには長期的な利用状況を見ていく必要がある。観光向けの再編路線は、観光施設の入館者増に比例し、増えているものと考えられる。通勤向けの再編路線は、通勤利用に結びついていない状況が続いており、再編の成果が出ていない。

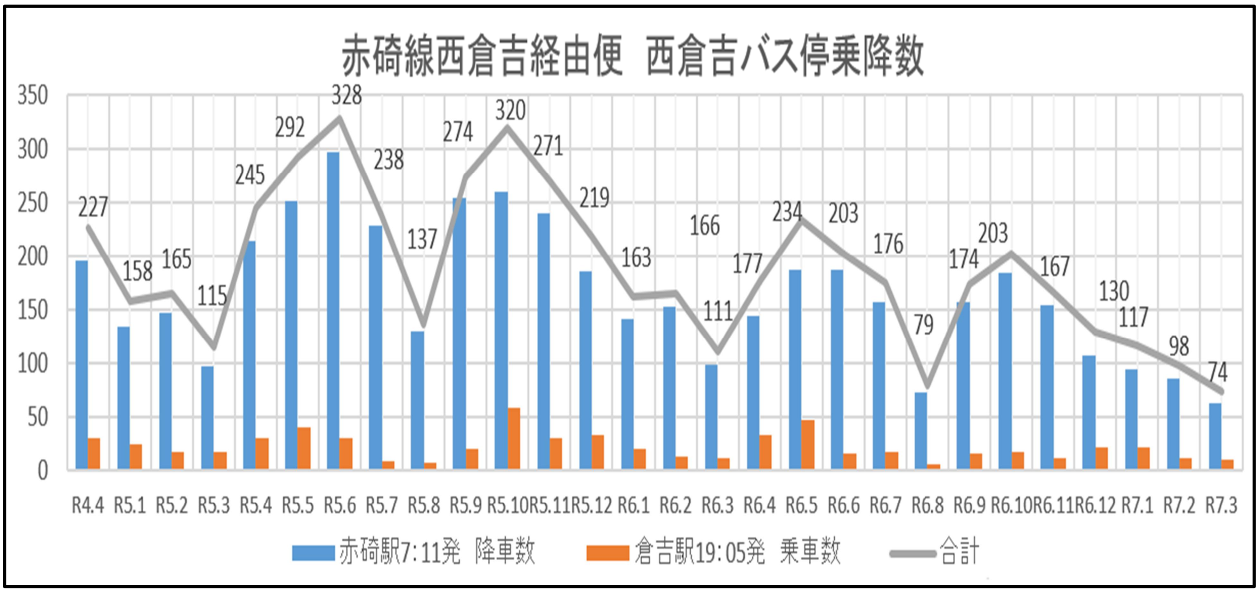
⇒令和６年度末をもって利便増進実施計画が満了したが、これまでの再編路線も含め、令和８年春に運用開始予定の路線バス ICOCA から得られる年間通じての乗降データを分析し、利用実態に基づいたより良い路線のあり方を検討していく。

１　令和元年１０月再編路線の状況

（１）赤碕線の西倉吉経由便

倉吉西高校向けの通学便の西倉吉バス停乗降数は、学校の長期休業期間中等には利用が減るなど月によって利用人数にばらつきがある。

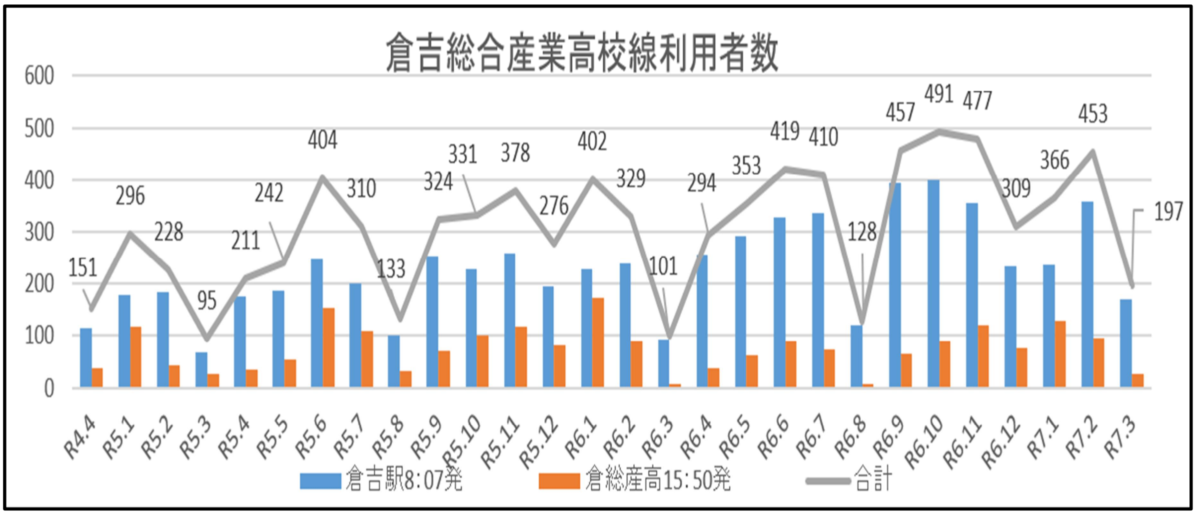
令和５年度と令和６年度の利用者数を比較すると、令和６年度は約３割減となっている。
（R4：延べ 3,008 人　R5：延べ 2,764 人　R6：延べ 1,832 人）



（２）倉吉総合産業高校線

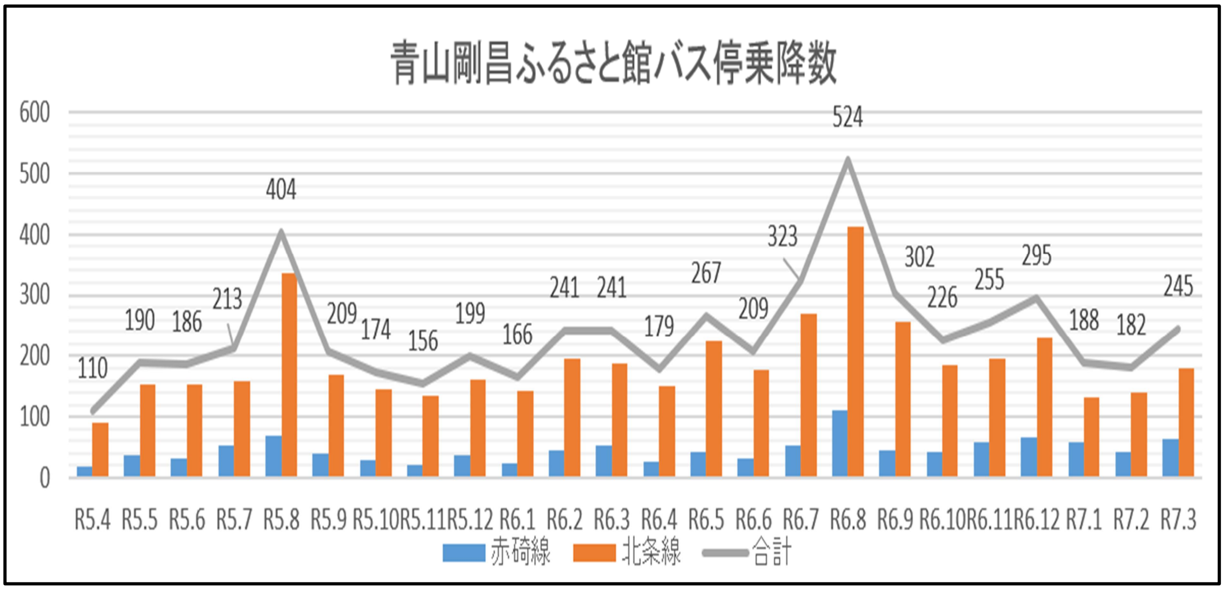
（１）と同じく、月によって利用の波が大きい。梅雨や雪の時期には利用が多い傾向にある。令和５年度と令和６年度の利用者数を比較すると、令和６年度は約３割増となっている。

ただし、下校便（倉総産高 15：50 発）は約 15%減となっており、特に夏休み期間の利用が減少している。(R4：延べ 2,273 人　R5：延べ 3,441 人　R6：延べ 4,354 人)



（３）青山剛昌ふるさと館経由便

令和５年度と令和６年度の利用者数を比較すると、令和６年度は約３割増となっており、入館者の増加に伴い、バス利用者も増加していると考えられる。(青山剛昌ふるさと館入込客数 前年比約３割増 ※県観光戦略課 観光客入込動態調査) (R5：延べ 2,489 人、R6：延べ 3,195 人)



（４）社線、北谷線の西倉吉工業団地内経由便

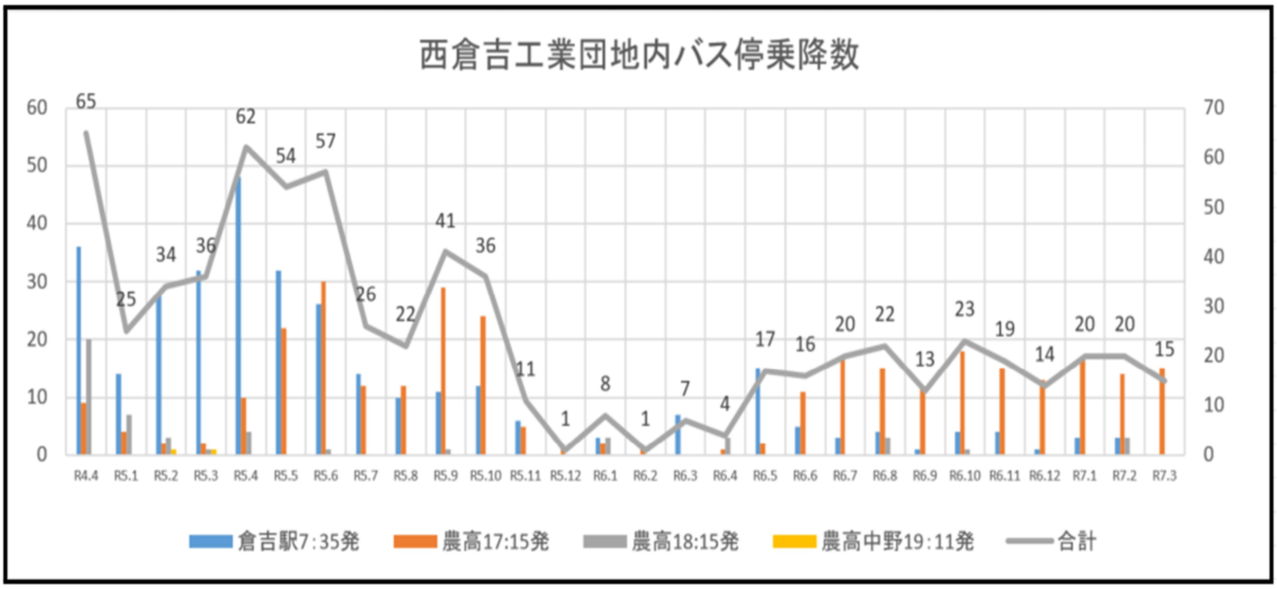
令和３年度は利用がやや増加傾向だったが、令和４年度以降利用者が減少傾向にある。

令和５年度と令和６年度の利用者数を比較すると、令和６年度は約４割減となっている。

特に、倉吉駅 7：35 発便の利用者が約７割減となっており、また、倉吉農高 18:15 発、19:11 発便については、昨年に引き続き利用者がほぼない状況となっている。

ただし、令和６年 11 月以降は前年に比べ、利用者が増加している。

（R4：延べ 424 人、R5：延べ 326 人、R6：延べ 203 人）



２　令和２年４月再編路線の状況

○北条線・橋津線の国道 179 号線経由便（※年間通じての乗降データなし）

昨年５月に実施された年１回の乗降調査結果によると、調査日当日の乗客 76 人のうち、新設した区間（河北中央公園前～信生病院前）での乗降客数は延べ 14 人となっており、一定の利用者が確認できた。当該調査日においては、信生病院前バス停の利用者が多くなっている。

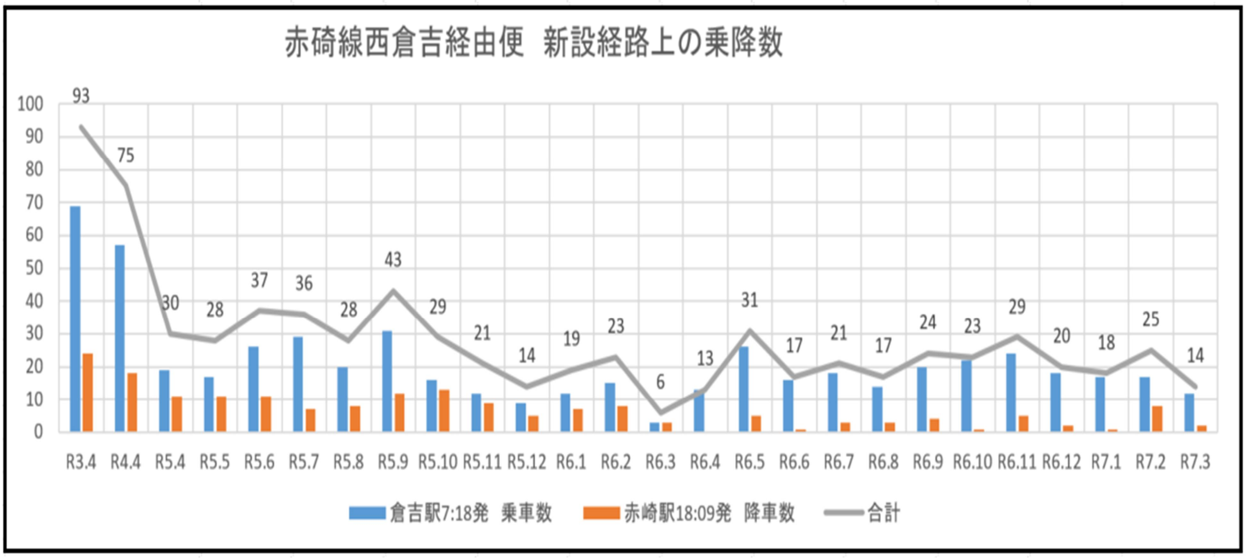
３　令和３年４月再編路線の状況

○赤碕線（西倉吉経由便）の増便及び経路新設

鳥取中央育英高校、琴の浦高等特別支援学校向けの通学便を増便するとともに、経路を新設。当該新設経路上（広瀬町～福守町北バス停）の利用者は減少傾向にある。

令和５年度と令和６年度の利用者数を比較すると、登校便（倉吉駅 7:18 発）は昨年と同程度だが、下校便（赤碕駅 18:09 発）が約７割減となっており、全体では令和６年度は約２割減となっている。

（R4：延べ 634 人、R5：延べ 314 人、R6：延べ 252 人）



４　令和３年１０月再編路線の状況

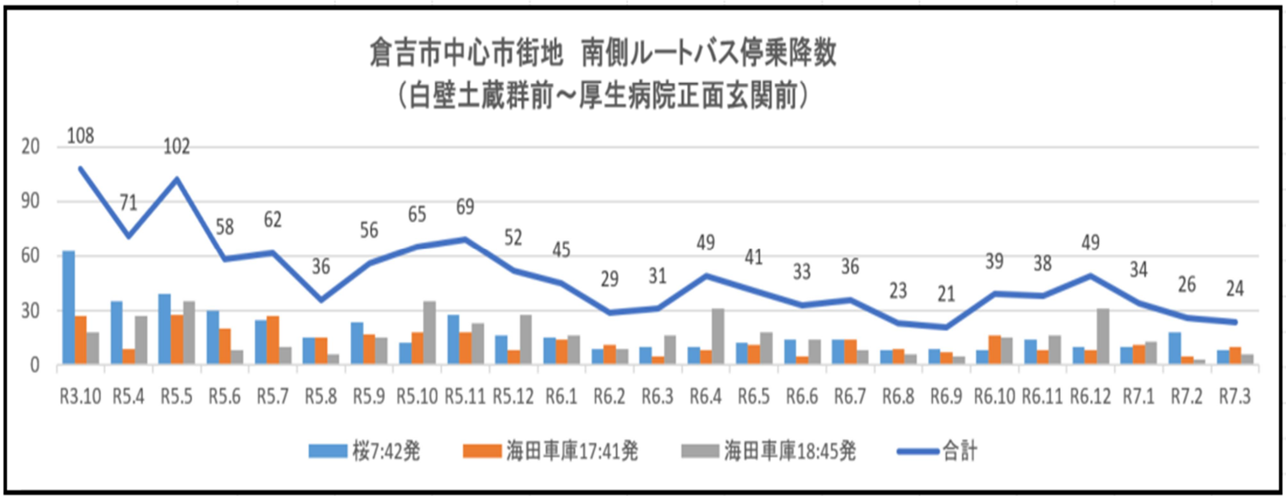
〇倉吉市中心市街地通過路線の再編

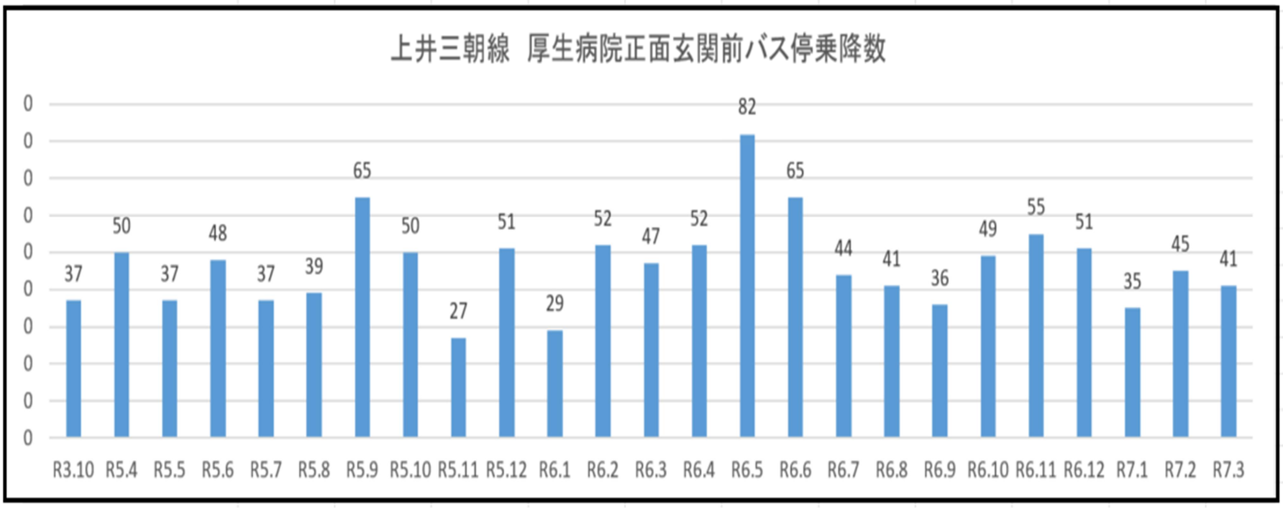
従来の北側ルートから、総合病院や観光施設にアクセスが良い南側ルート（倉吉パークスクエア、市役所打吹公園入口バス停等を経由するルート）に一部路線再編を行ったもの。

（１）日ノ丸自動車（対象路線：社線、高城線、横田線、上井・三朝線）

・令和５年度と令和６年度の利用者数を比較すると、令和６年度は約４割減となっている。
（R4：延べ 857 人、R5：延べ 676 人、R6：延べ 413 人）

・また、上井三朝線の一部について厚生病院正面玄関前への乗り入れを実施。令和６年度の利用者数は月平均で 50 人となっており、昨年度より一割程度利用者が増えている。厚生病院前バス停と比べて移動距離がかなり短縮され、通院や病院への通勤利便性が向上している。





（２）日本交通（対象路線：松崎線、パークスクエア線、広瀬線の一部　※年間通じての乗降データなし）

昨年５月に実施された年１回の乗降調査結果によると、調査日当日の乗客数 223 人のうち、南側ルートバス停（白壁土蔵群前～厚生病院正面玄関前）での乗降客数は約 6 割の 134 人となっており、一昨年の調査時が約４割であったのに比べて、割合が増加している。

そのうち、厚生病院正面玄関前での乗降客数は 80 人であり、一昨年の調査に引き続き、倉吉駅方面からの朝の便の利用者が多かった。